



鳩摩羅什師と國前寺・草堂寺

- 1) 國前寺について p 1 ~ p 4
- 2) 草堂寺について p 5 ~ p 7
- 3) 草堂寺訪問について p 8 ~ p 9

1999. 5. 11

森 一久

國前寺の縁起（概要）

國前寺は、暦応三年（1340）日蓮宗の僧日像が当地にて法華經に帰依した暁忍坊に出会い開いたものである。はじめ暁忍寺と称したが、江戸初期の明暦二年（1656）に、二代藩主浅野光晟室満姫（豊臣秀吉の姻戚に当る、法名・自昌院殿英心日妙）が菩提寺としたことから、寺名を現在の自昌山國前寺と改めた。

歴代住職は、現在までに三十八代を数え（別記）、同寺は安芸地方における日蓮宗寺院の中でも古い寺院として著名である。

なお、日像師は、日蓮宗の開祖日蓮の直弟子の一人として、若年にして嘱望され、日蓮臨終の際にとくに法華經の布教に専念するよう託された。そのために日像師は日本全国を行脚し、安芸国に来て、当時海岸にあった尾長山の麓の草庵に住む「暁忍」と会い、暁忍が法華經の信仰に帰依したことから本寺を開いたものである。

別添の「なみゆり」は、第七十四図は厂応三年（1340）、第七十八図は康永元年（1342）いずれも日像により書かれ、いまも國前寺に残るものである。なお、本寺にはいつの頃からか鳩摩羅什師の木像が所蔵されている。

國前寺は、日蓮以来の「不受不施」の信条を厳格に貫いたため、同様の考えの寺院とともに幕府から弾圧を受けた。そして前記自昌院等の庇護にかかわらず、遂に寺領没収となったが、信者等の強い支持のもと、明治維新まで、一部建物の縮少・撤去にはあったものの、生き延びてきた。

また1945年には、原爆により（2.6kmの距離）家屋が傾斜、尾根や庇の一部が吹き飛んだ。信徒の多くも被災したので、彼らの生活が漸く旧に復した被爆30年後になってはじめて、國前寺は寄付を募り、復旧に着手・完了した。1986年には、その建物は重要有形文化財の指定を受けている。

現在の寺地は、広島駅北口より北東約600mに位置し、広島市街を一望する東区山根町の尾長山の尾根を削り取った大地に南面し、約8000坪（25,000m²）の寺域を構えている。

歴代の住職

<遷化>

開山	日像	康永元年	(1342)
二代	日暁忍	文和3年	(1354)
三代	日妙実	貞治3年	(1364)
四代	日妙全	永徳3年	(1383)
五代	日巖	応永21年	(1414)
六代	日忠	永享3年	(1431)
七代	日慈	宝徳2年	(1450)
八代	日久	寛正3年	(1462)
九代	日賢	文明10年	(1478)
十代	日淵	文亀3年	(1503)
十一代	日正	永正12年	(1515)
十二代	日執	天文元年	(1532)
十三代	日在	天文7年	(1538)
十四代	日梁	永禄3年	(1560)
十五代	日教	天正元年	(1573)
十六代	日永	文禄3年	(1594)
十七代	日音	元和8年	(1622)
十八代	日達	万治4年	(1661)
十九代	日珠	万治4年	(1661)
二十代	日勝	貞享3年	(1686)
二十一代	日迫	元禄10年	(1697)
二十二代	日憲	元禄10年	(1697)
二十三代	日眼	元禄14年	(1701)
二十四代	日啓	元文元年	(1736)
二十五代	日衍	寛保2年	(1742)
二十六代	日禎	安永4年	(1775)
二十七代	日報	明和2年	(1765)
二十八代	日演	寛政6年	(1794)
二十九代	日遵	享和2年	(1802)
三十代	日閑	文化6年	(1809)
三十一代	日徴	文政2年	(1819)
三十二代	日等	文化13年	(1816)
三十三代	日相	弘化元年	(1844)
三十四代	日禅	慶応2年	(1866)
三十五代	日静	文久2年	(1862)
三十六代	日昇	明治31年	(1898)
三十七代	日秀	昭和13年	(1938)
三十八代	日華	現在	



第七十八図 (なみゆり) 御年七十四歳

授与之暁忍寺(国前寺旧名)

康永元年^{壬午}七月一日 (一三四二年)



広島市山根町

本山

自昌山 国前寺 宝蔵

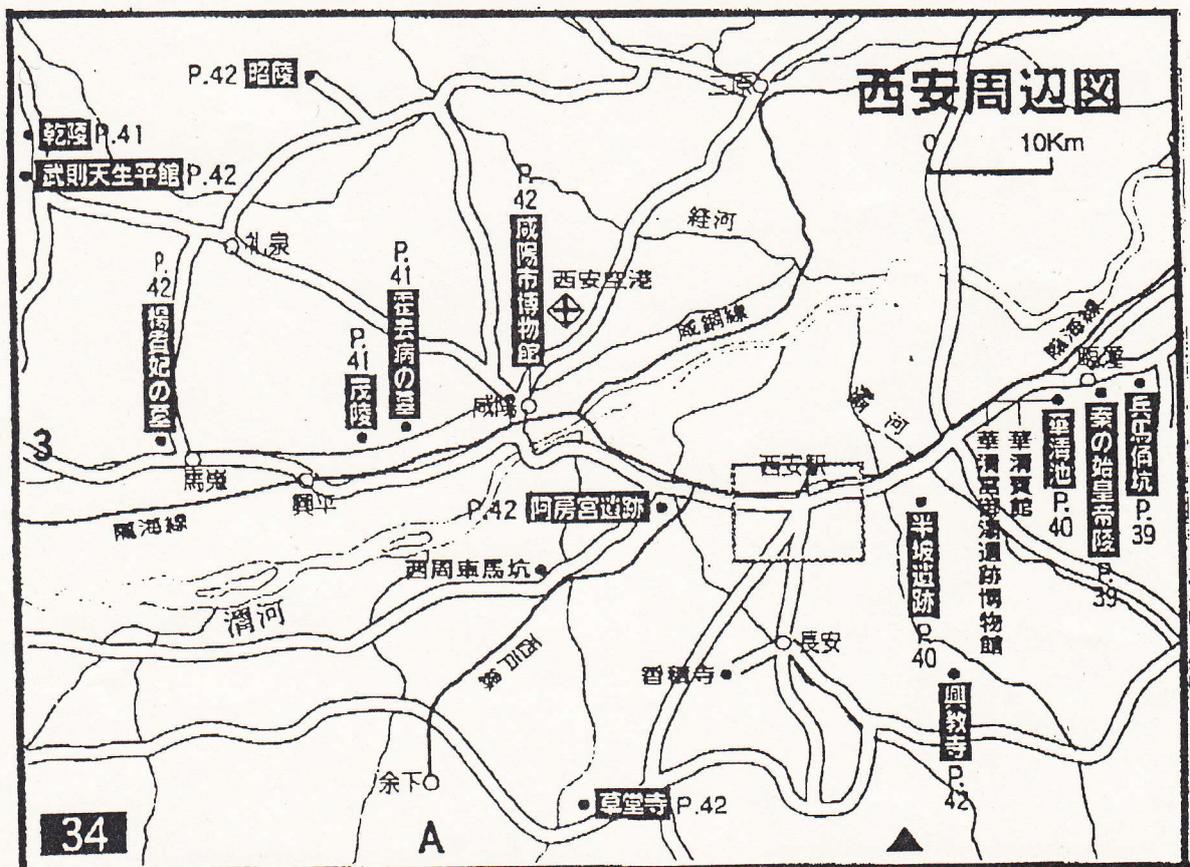
本紙 六六・〇×四〇・〇 cm

草堂寺 ツァオタンズー

創建は東晋末で、この寺は、後秦の時代まじ亀茲国（現在のクチャ）出身の名僧鳩摩羅什くまらじゆうが仏典の翻訳をしたところとして、全国に名をはせている。

鳩摩羅什は、またの名をクマーラジーバとも言い、紀元344年、インド人僧を父に、亀茲国国王の妹を母に生まれた。7歳の時出家、カシミールや今のカシュガルで最初に小乗仏教を、のちに大乘仏教を学んだ。亀茲国に帰った彼の名は、遠く長安にまで聞こえ、401年後秦の姚興に国師として迎えられた。彼が訳した仏典は97部、425巻におよぶと言われている。

413年、鳩摩羅什はこの世を去るが、彼の舍利塔は「姚秦三蔵法師鳩摩羅什舍利塔」と名づけて建てられた。またの名を「八室玉石塔」ともいう。この塔は千年以上たった今でも存在している。





クマラジュウ 草堂寺と鳩摩羅什

草堂寺は西安城の西南、秦嶺山脈主峰の北の麓にあり、西安市から約五十キロ離れている。草堂寺の建立は東晋、十六国に溯る。この寺は、後秦の王・姚興のために造営した逍遙園を基礎として修理し、建てられたもので、唐代の宣宗大中九年（八五五）のことであった。

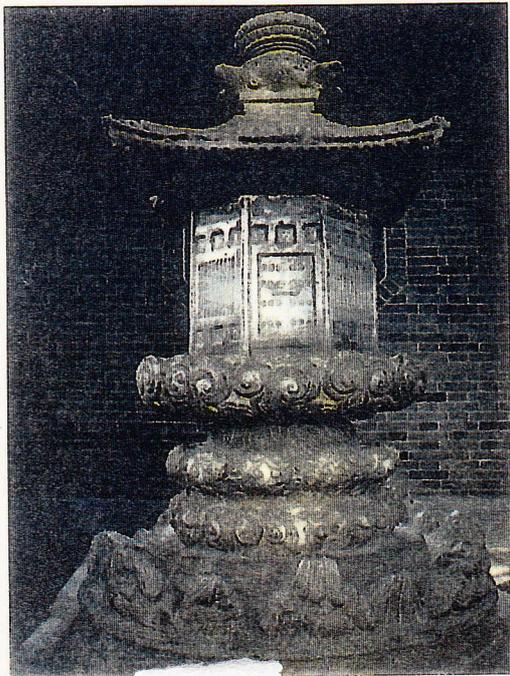
後秦の王・姚興は弘始三年（四〇一）に当時凉州（現在の武威）に滞在していた印度の高僧クマラジュウを国師として長安に迎え、逍遙園に住ませた。クマラジュウは長安に持ってきた多くのサンスクリット經典を逍遙園で姚興及び三千人の弟子と一緒に漢語に翻訳し、校正した。また、クマラジュウは仏教の小乗学、大乘学を明らかにした。従来の中国仏教は後漢の明帝（西歴五八～七五）の時代に伝来したもので

あるが、まだ、その法教理も決まっていなかったが、クマラジュウは仏教教理を漢語の經文によって明確に仏法論理として成立させた。この經典は合計九十七部四百二十五卷に及び、古代中国に最も早く輸入された大量の外国書籍の翻訳であった。そのため、のちの唐の皇帝太宗李世民はクマラジュウの偉業を讃えて、こう書いた。「十萬流沙來たり振錫、三千弟子共に訳經す…」彼は弘始十五年（四一三）に入寂した。時に七十歳であった。彼は中国に仏教を本格的に伝えた僧である。

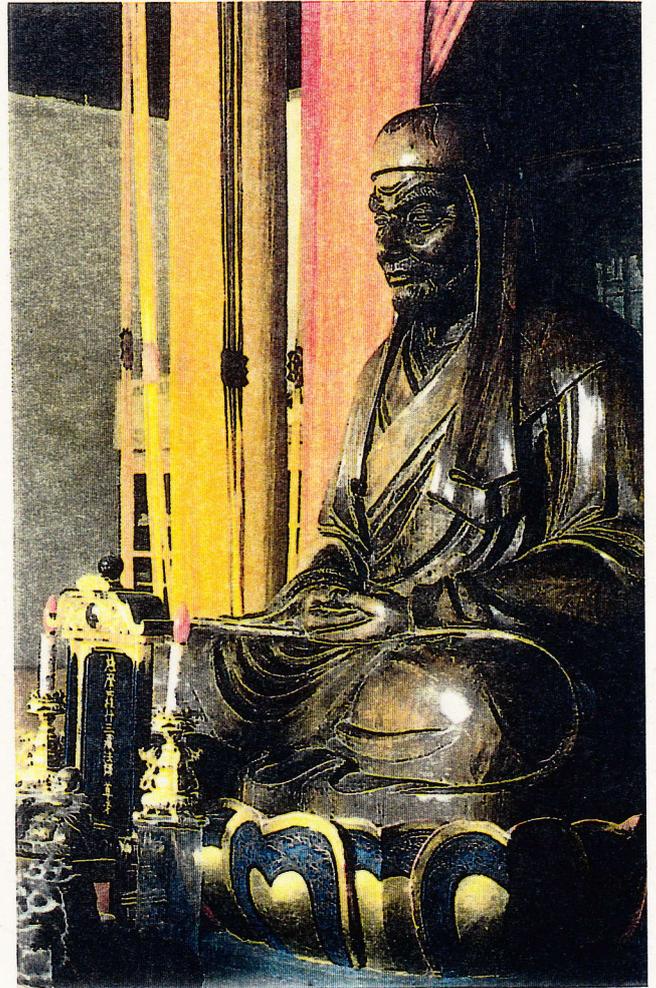
彼の死後、草堂寺に堂宇とクマラジュウ舍利塔を建立し、彼の骨灰を奉納した。舍利塔は乳黄色の大理石造りで、高さ二・三三米、八面十二層である。このため、八宝石塔とも称される。

塔身には精巧な浮彫の紋飾があり、美麗であるが、千五百余年を経た今日では貴重な史実の証となって珍重されている。

寺内の殿宇は後年の建物であるが、両側の回廊の壁に二十基の石碑が嵌められている。最も有名なのは第二門の前、碑亭の中に立っている石碑（定慧禪師伝法碑）である。これは唐代の書道家柳公権の篆書である。また、境内に老木が多く、井戸が一眼残存している。唐代にこの井戸から煙が立ち上がり、地下から天上まで繋がって空に漂い浮かんでいたという。故に古伝にいう「草堂煙霧」は長安八景の一つに数えられている。今日、寺は竹林に囲まれ、周辺はとも美しい。



鳩摩羅什像



クマラジュウの舍利塔

⑦

仏七時間割表 (仏七時間安排表)

10月14日これを通知する (十月十四日曉起之)

4. 00	起床 (起床)	7. 45	(止静)
4. 30	(早殿)	8. 15	(開静)
6. 00	朝食 (早飯)	8. 30	(起香)
7. 00	(起香)	8. 45	自分の位置に戻る (帰位)
7. 45	自分の位置に戻る (帰位)	9. 00	(止静)
8. 00	(止静)	9. 30	(開静)
8. 45	(開静)	9. 40	(起香)
9. 00	(起香)	10. 00	自分の位置に戻る (帰位)
9. 30	自分の位置に戻る (帰位)	10. 10	(止静)
9. 45	(止静)	10. 40	(開静)
10. 15	(開静)	11. 00	養生 (養息)
10. 30	(起香)		
10. 50	自分の位置に戻る (帰位)		
11. 00	(止静)		
11. 30	(開静)		
11. 30	昼食 (午飯)		
12. 00	昼休み (午休)		
2. 00	(起香)		
2. 30	自分の位置に戻る (帰位)		
2. 45	(止静)		
3. 15	(開静)		
3. 30	(起香)		
3. 50	自分の位置に戻る (帰位)		
4. 00	(止静)		
4. 30	(開静)		
5. 00	(晚殿)		
6. 00	夕食 (晚飯)		
7. 00	(起香)		
7. 20	自分の位置に戻る (帰位)		

10月15より〇〇 (由十月十五〇〇)
香積寺〇 (香積寺〇)

注1) () 内は中文
2) 〇印は判読不明文字

佛七時間安排表
十月十四日晚起之

4.00起床 4.30早殿 6.00早飯
7.00起香 7.45归位 8.00止静
8.45开静 9.00起香 9.30归位
9.45止静 10.15开静 10.30起香
10.50归位 11.00止静 11.30开静
11.30午饭 12.00午休
2.00起香 2.30归位 2.45止静
3.15开静 3.30起香 3.50归位
4.00止静 4.30开静
5.00晚殿 6.00晚饭
7.00起香 7.45归位 7.45止静
8.15开静 8.30起香 8.45归位
9.00止静 9.30开静 9.40起香
10.00归位 10.10止静 10.40开静
11.00養息 香積寺〇
由十月十五〇〇